

近年の流れ

インカレはOBOG主体の実行委員会が運営を担当する方式が主となってきた。

TCWG、理事会から示されたインカレ開催地案を学生の世論で変更する(03年度39回総会)など、学生がインカレをコントロールしようとする健全な姿勢を見せてきた。

近年、学生の運営参加姿勢が強まっている。

学生が運営に参加することの懸念

- ・学生の運営能力の未熟さ
- ・学生は競技領域にふれるべきではない
- ・インカレで真剣勝負をする学生たちに運営を強いて実力を発揮する機会を奪いかねない
- ・運営に参加する学生を集める負担と指示管理の負担

懸念の解消

- ・04ロングにおいて学生の運営参加は可能と実証
- ・学生の運営は非競技領域のみに限定する
- ・学生の中で負担分配を工夫
- ・インカレに対する価値観の多様性
- ・事業部の充実

他には？

現在学連とインカレが直面している問題

実行委員会を組織する段階における苦労が大きい。(人集め)

実行委員会を組織する時期が遅れると、開催が危ぶまれる。

将来に向けての方針

「OBOG主体のインカレ運営」から「学生主体のインカレ運営」へと移行

- ・実行委員会は学生によって組織される。
- ・「学生担当の仕事」と「委託する仕事」を分ける。
- ・委託する仕事について外部(OBOG、他団体)に協力を要請する。

・事業部はインカレ運営の中核となる。

・地図作成と運営実務を分ける。他団体との提携を行うなど、地図作成を伴わないインカレに対応。

地図作成については、実行委員会外に専門部署を設置するor必要に応じて実行委員会内に地図調査パートを置

・学生期における運営能力の成長

・学連によるオリエンテーリング界への貢献